

目的に応じた文章構成及び、意見と理由の整合性について考える力を高めるための指導の工夫
～小学校5年国語「豊かな言葉の使い手になるためには」の実践を通して～

新発田市立五十公野小学校
教諭 貝瀬 健太郎

1 目指した子どもの姿

自学級の児童に学習指導改善調査の過去問題を実施したところ、段落を分けていなかったり、一段落に複数の内容が混在していたりと、段落や段落相互の関係を意識していない児童が多く見られた。また、自分の意見と理由に整合性がなく、論理的でない文章も多かった。このことから、自学級の児童には「目的に応じた文章構成について考える力」と「意見と理由の整合性について考える力」が十分でないと考えた。また、学習指導要領でも、自分の考えを明確に表現するために文章全体の構成の効果について考えることや、自分の考えを一貫して述べることの必要性が示されている。そこで、目指す子どもの姿を次のように設定し、実践を行うことにした。

- (1) 目的に応じた文章構成について考え、目的に応じた文章構成で意見を述べることができる。
- (2) 意見と理由の整合性について考え、一貫して自分の立場から意見を述べることができる。

2 具体的な手立て

(1) 意見文を書く目的としての討論会の設定

意見文を書く目的として、討論会を設定する。討論会で意見を述べる場があることで、分かりやすく自分の意見を述べる必要性を感じさせる。また、意見文及び討論会のテーマは「短縮言葉はよいか悪いか」とする。このテーマは児童にとって身近で興味を持ちやすく、立場をはっきりと決めやすいという良さが考えられる。学校図書館では資料はあまり見つからないことが予想されるため、教師が図書やインターネットの資料をまとめたものを用意しておき、児童が自力で調べられない場合に活用する。

(2) 目的に応じた文章構成について考え、文章構成の効果を感じさせるためのモデル文の活用

モデル文の段落を並べ替える活動を通して、意見が伝わりやすい文章構成について考える。また、望ましい文例と望ましくない文例を比較し、違いを見つけたり文章から受ける印象の違いを感じたりする活動を通して、意見文の文章構成や表現方法とその効果に気付かせる。

(3) 自分の立場と理由の整合性を考え、論を整理するための文章構成メモの活用

文章構成メモを使用し、論を整理させる。文章構成メモには自分の立場、自分の立場に整合する理由、自分の立場の問題点と解決案、まとめを書く欄を用意し、自分の意見と理由の整合性を考えながら記入していく。ペア活動を取り入れ、意見と理由が整合しているかを相互に確かめ合う。

(4) 目的に応じた文章構成が正しくできているか、一貫した意見が述べられているかを確かめるための推敲活動

目的に応じた文章構成や、意見と理由の整合性、表現の仕方についてペアで推敲をするときの視点として、チェックリストを活用する。チェックする項目は、目的に応じた文章構成ができているか、意見と理由の整合性、引用の仕方、文末表現、接続詞、誤字脱字、漢字などである。そして、ペアで推敲した後には、意見が明確に伝わったかどうか相互に評価させる。

3 授業実践

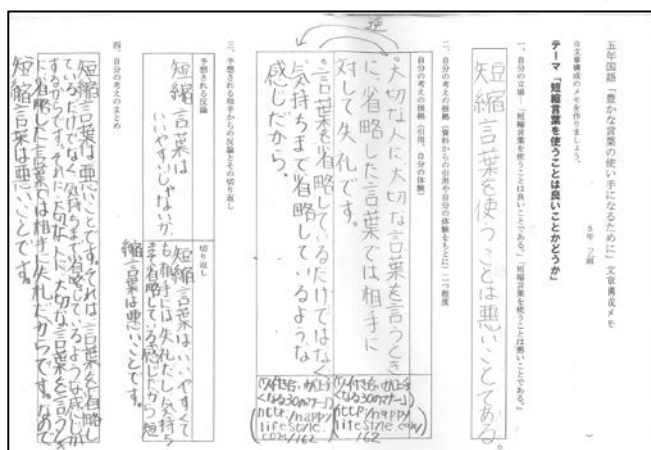
(1) 単元名・教材

単元名「自分の考えをまとめて、討論をしよう」(全14時間)

教材名「豊かな言葉の使い手になるためには」(光村図書5年)

第8時で、各自が書いた意見文をペアで推敲する活動を行った。チェックリストの項目を見ながら、互いの意見文を推敲し合った。理由と根拠となる事実のつながりが分かりづらい文章や段

落が分けられていない部分について指摘があり、修正している姿があった。



使用した文章構成メモ



推敲チェックリスト



児童が書いた意見文

4 成果と課題

(1) 成果

- 討論会という目的があることで、自分の意見を相手に伝えるという必要感をもって意見文を書くことができた。実際の討論場面でも、落ち着いて自分の意見を話している姿が見られた。
- モデル文の活用は、文章構成や表現方法などに気付かせる上で有効だった。文章の並べ替えや望ましい文章と望ましくない文章の比較は、文章構成や表現の効果について考える思考を活性化させていた。
- 文章構成メモを作ることで、意見と理由、根拠となる資料の整合性を考え、意見を整理することができた。文章構成メモを作る段階があったことで、意見文を書くことへの抵抗感を減らすことができたと考えられる。

(2) 課題

- ・モデル文を参考にさせたことで文章構成が明確で分かりやすい文章を書くことはできていたが、最終的にはモデル文や文章構成メモがなくても自力で意見と理由を整理したり、意見文を書いたりできるようにしたい。そのためには、段階的に手立てを減らしながら、繰り返し意見文を書く経験を積んでいくことが必要であると考え。意見文を書く機会の計画的な設定と、児童の実態を踏まえた手立ての精選が今後の課題である。